

学 習 指 導 案

科 目	ビジネス基礎	単元名	第2章 経済と流通の基礎 第1節 経済のしくみとビジネス (3)経済の基本的な考え方
単元の目標	経済活動の基本的な考え方を学び、合理的な意思決定をできるようにする。		
本時の目標	1、生産要素について理解する。2、生産の希少性について理解する。3、トレードオフと機会費用の考え方を理解する。		
本時の目標 (評価規準)	①経済学において、合理的な行動とは会計上の費用ではなく、経済学上の費用に基づいたものと考えることができる。【知識・理解】 ②経済活動の基礎となる考え方について、様々な事例を上げながら考察するとともに、具体的に説明することができる。【思考・判断・表現】		
過程	指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
導入 5分	生産の三大要素の確認。	・価値を生み出すために必要な、生産の三大要素を確認する。 「土地」「資本」「労働力」 →生産要素には限りがある。(生産要素の希少性)	・生産の三大要素を発問により確認する。 ・生産要素の希少性の意味を理解しているか発問により確認する。 ・「時間」という資源にも限りがあることを確認する。
展開 4 2分	Q1 高校卒業後の進路。就職・進学の方所と短所を考えてみよう。		
	・ワークシートに就職、進学の長所と短所を記入させる。	・ワークシートに記入した内容を発言する。 ・高校卒業後、多くの生徒は就職するか進学するかの進路選択を行わなければならない。 →トレードオフ	・「時間」という資源を中心として、自分がどのような進路を選択すればよいか考えさせる。 ・就職して得られる収入と、大学進学にかかる費用に注目させる。
	Q2 就職して最初の四年間で得られる収入と、大学卒業までにかかる費用を計算してみよう。		
	・高卒の平均月給を15万円と仮定し、四年間で得られる収入を計算させる。 ・大学の学費を年間100万円、1ヶ月の生活費を10万円と仮定し、卒業までに費用を計算させる。	・高校卒業後、就職すると四年間で720万円の収入を得ることができる。 ・大学を卒業するまでの四年間の費用は880万円である。 →大学に進学した場合、高校卒業後に就職をした時に得ることができる720万円は得ることができない。	・単純な計算ができているか、机間指導を行いながら確認する。
	Q3 進学した場合、就職した場合との費用の差額はいくらになるだろうか。		
●発問...19歳～22歳までの収入と支出をグラフに描かせ(ワークシート)発問する。	〈予想される答え〉 A:160万円 B:720万円 C:1,600万円 ・会計上の費用は、実際に支払う880万円である。 ・経済学上の費用は、実際に支払った880万円+就職していた場合に得られた720万円の合計1,600万円である。	・会計学上の費用と、経済学上の費用は異なることを認識させる。 ・トレードオフによって諦めなければならなかった価値→機会費用 [評価] ・機会費用について理解できているか。 (評価方法) (目標①) 発問・ワークシート	
Q4 高校卒業後、就職した時の機会費用はなんだろうか。			
●発問...では、高校卒業後、就職したほうが収入面において有利なのか? →23歳～60歳までのグラフを描かせる(ワークシート) ●発問...何歳、何万円の時点で大卒の収入が高卒の収入を上回るだろうか?。	月収を高卒=15万円、大卒=25万円と仮定する。 【高卒】60歳の収入 180万円/年=15万円×12ヶ月 180万円/年×(60歳-22歳)+720万円=7,560万円 【大卒】60歳の収入 300万円/年=25万円×12ヶ月 300万円/年×(60歳-22歳)-880万円=10,520万円 →差額は2,960万円 ●収入の差は2,960万円 ●交点は36歳、3,120万円	☆グラフの作成が難しい場合は、板書しながら解説を行う。 ・実際の生涯賃金は高卒2億5,000万円、最卒3億3,000万円、従業員1,000人以上の企業は大卒で3億9,000万円となる。(参考「ユースフル労働統計・労働加工指標数」より学歴別生涯賃金(退職金含む)) ・実際の生涯賃金では、約8,000万円～1億4,000万円の差が生まれる。 ・収入面での比較であることを留意する。(収入以外にも意思決定の要因があることを理解させる。)	
Q5 身近な事例や企業の経済活動をイメージして、トレードオフの考え方に当てはまるものはないだろうか考えてみよう。			
・身近にある選択肢に対する意思決定や、最近のニュース等でトレードオフの考え方に当てはまることをワークシートに記入させる。	・ワークシートに記入する。	[評価] ・身近な事例や企業活動をイメージしたことを、本時に学習した内容と照らし合わせてワークシートに書けているか。 目標② (評価方法) …ワークシート	
まとめ 3分	・生徒数名にワークシートに記入したことを発言させる。 ・本時のまとめをし、次回の予定を確認する。	・身近な事例や企業活動をイメージし、本時の内容と類似することを発言する。 ・本時の内容と、次回の内容を確認する。	・トレードオフと機会費用の意味を再度確認する。 ・経済活動は、目先ではなく長期的な視点を持って意思決定することを理解させる。

